



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市入船町1番地  
電話(53)3033~4  
編集兼 杉本一男  
発行人  
半年間 1,200円 送料共  
振替口座番号  
労金大牟田  
0968946-005

**公判お知らせ**  
11・9三池大炭災裁判公判  
十一月十九日午後一時から、福岡地方裁判所。(46回)  
9・28 坑内火災裁判公判  
十月六日午後一時から、同右裁判所。(38回)

**9・28坑内火災 抗議集会**  
日時 九月二十八日(火) 午後五時  
場所 三川鉱正門前  
組合員・主婦会・原産地の皆さんのご参加をお願いします。

## 閉山提案に抗して

# 新鉱再建まで生きる道

### たたかう夕張へ、支援・共闘を

北炭夕張新鉱の労働者を踏み倒しての閉山と全員解雇という、前代未聞の提案からやがて一カ月。閉山と全員解雇が通告される九月二十一日が刻一刻と迫っています。「たたかう以外に生きる道はない」と

現地の労働者、家族をはじめ多岐市民あげてのたたかいは、日増しに全道から全国へ急速に広がっていますが、事態はおおきく全国民の世論の一層の高まりが求められています。

きた。しかし、もうひきさがれない、我慢の限界だ。最後の最後までたたかてやる」と、夕張新鉱の労働者は決意を語ります。

#### 再建の道は

まず、労働者を完済することです。踏み倒し閉山は絶対に許されません。北炭と三井グループとが北炭と国家資金を食いものにしていた三井観光開発と炭原会長は、資産を処分してでもその責任を果さなければなりません。つきに夕張新鉱には、優れた炭質と豊富な炭層があり、石炭政策上からも有効な資源活用と雇用を確保するために、ヤマを崩壊させるのではなく、生き返らせる方向で政府が積極的に対策を講じることが必要です。

#### 我慢の限界

大災害から百六十三日経った三月二十八日、最後まで坑道の奥に取り残されていた仲間十五人の白骨化した遺体が収容されたとき、金・退職金の未払い、長期療養者への退職強要など、憲法と各種の法坑口ではまた被害が舞っています。

#### 当面の闘い

炭原は、十四日の夕張新鉱対策委員会、十五日の臨時大会の決定で手に入れた。筆頭株主は宮内省で、他は華族、政商、高級官僚だったという。それらをもとに、石炭政策資金まで飲み込んで荒稼ぎしたのが炭原であり、殺し、首切り、捨て、この凶悪は近代日本の資本主義の象徴でもある。

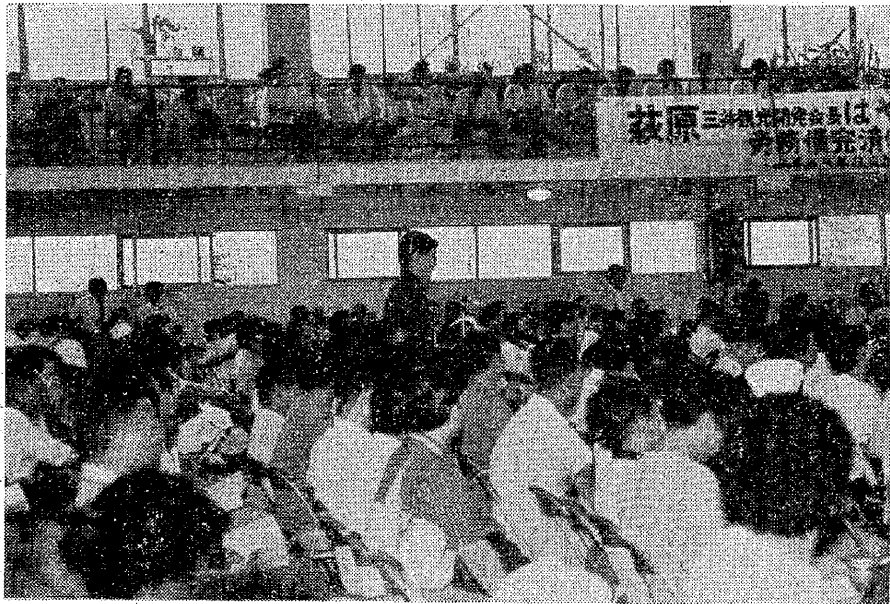
## 主張

### 閉山阻止の闘いと炭鉱労働者への警鐘

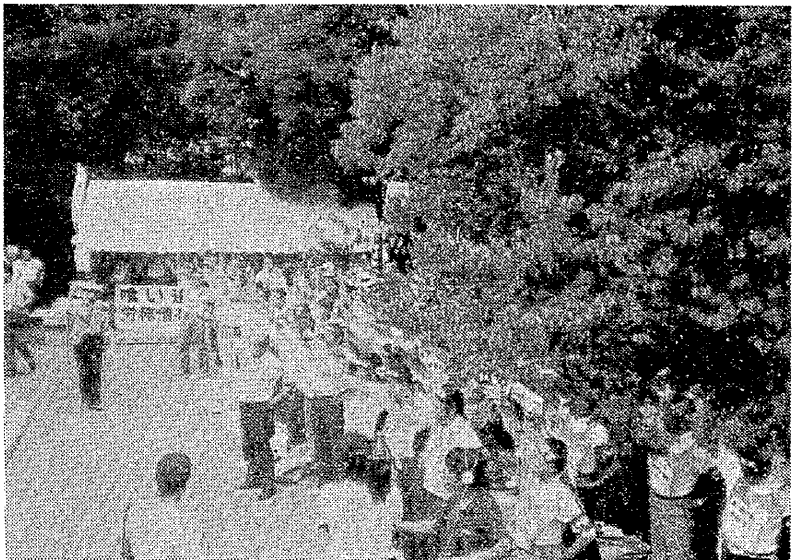
昨年十月十六日に発生した、北炭夕張新鉱のガス突出、二次災害による大災害は、犠牲者九十三人を出し、戦後三番目の大惨事となりました。炭原は、直ちに夕張新炭鉱災害対策委員会を設置し、『北炭資本の災害の責任追及』と『遺族の補償』とあわせ、夕張新炭鉱再建に取り組んでいるさなか十一月十五日、北炭資本は突然『会社更生法』の申請を行い、自らの手で経営権を放棄しました。

一月二十三日生産再開、三月二十八日全遺体の収容、四月十日合同葬が行われる中で、更生法手続きの開始と管財人の選任を促すもヤマの再建という名の

この管財人による更生計画の去勢が十分であったことが災害の原因である」と発表、人災であることが明白になりました。夕張新鉱労働者に対し、①全面閉



閉山阻止めざしあくまで闘うことを決めた新鉱労働者の全員大会(八月二十三日、清水沢体育館)



北炭グループの総帥、萩原邸で決起集会のあと、無期限の座り込みへ

## 地底

▼今年、天候異変で秋の訪れが早い。川端のハゼ釣りに列ができ、鈴虫の音が聞こえ、彼岸花が咲く。夕張はずいぶん秋、やがて朝晩にはストロープを入れなければならぬ時期となるが、閉山通告期限は目の前に迫っている。

▼『破産』とは、「家産を破り失うこと」「身代かぎり」とある。つまり破産したら何もかも破産(シャレ)ではない(つまり無であるが、一家が破産するのはわけが違ふ。数千、数万の人びとが路頭に迷い、あすの石炭、灯油の心配からはじまる、ぎりぎりの生存権「人として生きる」苦境に直面しているのである。

▼北炭は北海道開拓の初期に富貴の炭鉱、鉄道、山林などを、時の権力者たちが山分けの方法で手に入れた。筆頭株主は宮内省で、他は華族、政商、高級官僚だったという。それらをもとに、石炭政策資金まで飲み込んで荒稼ぎしたのが炭原であり、殺し、首切り、捨て、この凶悪は近代日本の資本主義の象徴でもある。

▼炭原が「遊休地を売って井済の一部に……」といったたんに防衛庁が名乗りをあげた。北海道沼田町の一万ヘクタール(約三十万坪)を演習地というわけだがその他の近接の買収などを含めて国家資金の導入が論議的になりそうである。あれやこれやと、政商萩原はまたしても国からの金をアテにしているわけだ。

▼「閉山」とはいつているが「再建への火種」を残す」と大沢管財人。五年先に新鉱開採に乗り出す意思もあり。北炭は論外としても黒いウサギが疑心暗鬼を呼ぶ。大災害からあと一カ月でちょうど二年。夕張の山やまを紅葉が彩る季節だということに、ヤマにはいまの黒い煙がめらめらと上がる。